

ホルモン受容体陽性・HER-2 陽性乳癌（閉経後）  
 パーシタ+トラスツズマブBS(ハーセプチン) +アロマターゼ阻害薬(AI)  
 併用療法 患者プロトコール

催吐リスク
最小度
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース 21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~1 年齢:18歳以上》		投与量	投与日	投与時間	備考	
ルートKeep	生食 500mL	—	Day1	—		
①	初回	パーシタ:840mg/body	Day1	60分		
	生食 250mL	mg				
②	2回目以降	パーシタ:420mg/body	Day1	下記参照*		
	生食 250mL	mg				
経過観察	下記参照					
②	初回	<input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:8mg/kg	mg	Day1		90分
		<input type="checkbox"/> (ハーセプチン:8mg/kg)				
		60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注				
		生食 250mL				
②	2回目以降	<input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:6mg/kg	mg	Day1	下記参照*	
		<input type="checkbox"/> (ハーセプチン:6mg/kg)				
		60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注				
		生食 250mL				
経過観察	下記参照					
内服	アロマターゼ阻害薬		mg	Day1-21	分1	
	<input type="checkbox"/>	アナストロゾール:1mg/body/日 (アリミデックス)				
<input type="checkbox"/>	レトロゾール:2.5mg/body/日 (フェマーラ)					

\* パーシタ・トラスツズマブ(ハーセプチン)は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間30分まで短縮可。  
 ◆経過観察:パーシタ及びハーセプチン投与終了後、Infusion reactionの発現がないことを確認してから、次の薬剤を投与する。  
 初回は30分の経過観察を行い、2回目以降は様子を見て短縮可能。  
 ◆前回投与日から投与間隔が6週間以上の場合、パーシタ及びトラスツズマブ(ハーセプチン)ともに初回投与量を再投与。